

(萩山 正治)

〔非売品、平成十三年十二月十日発行、A五判、六七頁〕

酒井 シヅ 著

『病が語る日本史』

著者の酒井シヅ教授は昭和四十二年に小川鼎三先生について、医史学研究生活に入られ、平成三年には順天堂大学医史学教授として、全医科大学中唯一の専任教授として、医史学の啓蒙と普及のため、全エネルギーを傾倒してこられたことは万人のよく存じているところである。

昨年三月停年退官の際の記念出版『東と西の医療文化』を見るまでもなく、三十数年間にもなされた著書、論文、随想の数は膨大なもので、ひとり国内のみでなく、国際的にも深く評価されている。

なかでも昭和五七年に出版された『日本の医療文化史』（六百余頁）は、教授の研究生活を代表する名著であると信じている。

昨年退官後は客員教授として、すべてにリラックスしておられる事と思っていた時、この様な一般人にも理解しやすい書物を出版されたことに、著者の見識の広さ、深さに改めて敬意を感じる。

まず書物のカバーであるが、厚手の艶のある白色の紙面に

カラフルな錦絵が印刷してあり、本の内容とよくマッチする。

内容は三部に分かれる。

第一部 病の記録

骨や遺物が語る病、古代人の病、疫病と天皇、糖尿病と藤原一族、怨霊と物の怪、マラリアの蔓延、寄生虫との長いつきあい

第二部 時代を映す病

ガンと天下統一、江戸時代に多い眼病、万病のもと風邪、ハンセン病、脚気論争、コレラの恐怖、天然痘と種痘、梅毒の経路は？、最初の職業病、赤痢、「命定め」の麻疹

第三部 変わる病気像

明治時代のガン患者、ペスト流行、事件簿エピソード、消えた病気、新しく現れた病気、平均寿命と死生観

これらの文章は物語調で書いてあり、非常に読み易いが、反面、著者にとっては論文調よりかえって書き難い点がある。これらの病のうち伝染性流行病が半分以上十五種を占めている。

私が特に印象を深くしているのは、天平七年（七三五）同九年にかけて大流行した痘瘡（天然痘、疱瘡、豌豆瘡、裳瘡）についてである。痘瘡は印度北部から中国を経て朝鮮半島へと流行してきた。天平七年新羅から北九州に上陸して東進して全国に及んだ。特に天平九年の時は百姓（一般人民）はもとより官人も多く死亡し廃朝するに至った。特に藤原不比等

の男子四人(何れも参議)が四月から八月の間に痘瘡のために急死した。政府はそのため天平九年六月二十六日、諸国に官符を下して、この病氣(官符の中で病名を赤斑瘡と云っているのは誤り)についての症状、治療法などを官符の中で説明している。『病と日本史』には詳しく書いていないが『日本の医療史』には詳しく述べている。私が特にこの官符に注目するのは二百年後の永観二年(九六四)に朝廷に撰進された『医心方』の第十四巻の第五十七条豌豆瘡を治す方の中に、この官符を載せていることであり、撰者丹波康頼は極めて強い印象を受けていたことを物語っている。

次に興味を感じるのは、巻末に記述してある杉田玄白の号である。「九幸」についての解説である。玄白が初めて九幸老人と号したのは七九歳の時、両手をあげて軽く踊る自画像を描いた時に用いたのが最初と云われるが、その謂れとして本書には次の様に説明してある。

玄白が数えた九幸とは、一に泰平に生まれたこと、二に都下に長じたこと、三に貴賤に交わったこと、四に長寿を保ったこと、五に有禄を食んだこと、六にいまだ貪をまつたこと、七に老いてますます壮なることである。では読者は自分を何幸と云えるだろうか。

しかし玄白も八十を越すと、老いてきて目、耳、口の不具合を嘆いて、長生の辛さを語っているが、八五歳でこの世を去った。著者は幸せを全うするには、からだを健やかに生

きることこそもっとも重要であると結論している。
やがて八十歳を迎える私にとっては、まさに感慨を同じくするものがある。

(杉立 義一)

〔講談社、東京都文京区音羽二一―二一―二一、電話〇三―三九四三―九三〇三、二〇〇二年五月二〇日、B六判、二七〇頁、定価本体一八〇〇円〕

外山 幹夫 著

『医療福祉の祖 長与専齋』

中世史専門の著者が、長与専齋を取り上げた理由は三点ある。長与がわが国近代の医療・衛生、及び福祉体制を確立した人物であること、著者自身が大村市の旧武家屋敷に幼少の頃から青年期まで住んでいたこと(長与家は大村藩藩医であつて、著者の家の近くに長与家の墓地があつた)が第二点、そして現在、著者が勤めている県立長崎シーボルト大学が、専齋の本貫地の長与町(長崎市の北隣)に立地していること、これが第三の理由で、平成十一年度の大学公開講座において「長崎と長与専齋」と題して講演したことが、本書を書き上げる動機になった、と著者は「あとがき」に述べている。

ところで、専齋の自伝「松香私志」は私家版であるので、今日の吾人らが読めるのは「松本順自伝・長与専齋自伝」、小